

第 575 回 役員会(臨時) 議事概要

- 1 日 時 令和 5 年 3 月 13 日 (月) 9 時 30 分～10 時 51 分
- 2 場 所 Zoom 会議
- 3 出席者 構成員 7 名：
牛木学長，川端理事，坂本理事，末吉理事，西田理事，塚本理事
(欠席：澤村理事)
陪席者 3 名：
田代監事，逸見監事，(欠席：富田特命理事)

4 審議事項

(1) 「死因究明拠点整備モデル事業」への申請について

「死因究明拠点整備モデル事業」への申請について，資料 1 に基づき審議が行われ，提出までに内容の修正等が必要となった場合は，学長に一任することとし，承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・「連携大学の強みを活かした連携型薬毒物検査拠点事業」というタイトルについて，「連携」という文言が重複しており，後半が地域連携という意味であれば，タイトルも地域連携型としたほうが良いと思う。また，そうした場合に，ポンチ絵で，拠点大学としての新潟大学が中央にあり，その枠の内側に学外の機関も入っているため，これらを枠の外側に出して，新潟大学と連携するという見せ方にする事で，地域連携というイメージがはっきりと出てくると思う。新潟大学の外側をどう見せるかということが重要であると思う。
- ・事業の趣旨として，地域との連携をしっかりと行うということが冒頭に記載されているので，タイトルが地域連携型ということであれば，そこを見えやすくしていく必要があると思う。
- ・新潟大学では新潟県内の機関とは，既に連携を進めているので，今回の新しい内容としては，他大学が所掌している地域との連携になると思う。
- ・新潟県は学外機関であるものの，本学の拠点の一部になっているため，ポンチ絵の中では，本学の枠と本学の拠点の枠の二重枠にして表現すると良いと思う。また，新潟大学本体を中心に新潟県と連携していくという姿が一つのモデルとなり，他大学等に同じシステムとして提供できるという形にできると良いと思う。
- ・本事業については，大量の検査等をどう処理をしていくかという中で，本学だけではなく，連携大学や他大学等も巻き込みながら，数を増やしていかなければならないという理解でよろしいか伺いたい。
- ・例えば，連携大学の 2 大学だけで対応して，そういった拠点としていくつか作っていくという方法や，新潟大学を拠点にして，連携大学以外にも検査を行ってもらう大学を増やして，それを大きくしていくという方法もあると思う。

- ポンチ絵が1枚しか提出できないのであれば、参考資料の「全国の薬毒物検査の実施状況」に記載されているような現状の中で、日本全国でより効率の良い仕組みを作る必要があるといった問題提起の内容を冒頭に追加して、解決策に繋げれば、より分かりやすい内容になると思う。
- そうすると、地域連携型ではなく、「大学連携型の地域薬毒物検査拠点事業」というタイトルが良いと思う。
- 例えば、「ネットワーク拠点事業」といった文言を入れても良いと思う。そうした場合に、他大学も追記し、将来的に他大学とも連携していくようなネットワークを作っていくという形にすれば目的が明確になると思う。
- 高度な分析が可能な大学と通常の分析が可能な大学との差が何であるのか、また、本学は通常の分析が可能な大学であるが、この連携大学と連携していくことでもう少し高度な分析を行っていくという理解でよろしいか伺いたい。
- そのとおりである。連携大学の指導を受けながら、高度な分析が可能な大学を目指していくことを考えている。また、高度な分析が可能な大学と通常の分析が可能な大学との差としては、導入機器の差が大きく、保有している機器によって変わってくると思う。
- 今回は薬毒物検査の分析なので、解剖技術等の差はなく、どの機器を使うかに尽きると思う。ただし、高度な分析を目指すというよりも、足りないものは他大学と連携しながら、効率よく検査していくということを明確にした方が良いと思う。
- 要求できる項目の中に設備はないということであるか。
- そのとおりである。
- 高度な分析を目指すということではなく、高度な分析が可能な大学等との連携を明確にして分業のネットワークを明確にすることで、全国がやるようになるという仕組みを作るということに焦点を絞るべきだと思う。
- 事業実施により目指す成果等について、こういったシェアリングモデルを横展開して、日本全体に広げていくとした方が、成果が明確になると同時に、クラウドによる業務管理というDXを強調することも時代に合っていると思う。
- クラウドについて、経費として運営経費だけが計上されているが、既にクラウドにより管理しているという理解でよろしいか伺いたい。
- 同じ研究室内での解剖や検案といった業務については、既にクラウドにより管理している。
- そうであれば、今回の連携大学のような大学が他にもあれば、参画してもらうことが可能で、今後も大きくなっていく可能性があるという内容にできると良いと思う。
- 本学ではクラウドを既に活用できているので、新潟大学でなければできないというところをアピールすべきだと思う。中規模の機器を保有している機関は多いが、本学が申請する理由として、連携大学との連携の実績や分析等を依頼できる仕組みができていたり、クラウドでの管理がしっかりとできており、他大学に提供しても支障がない仕組みを構築できていることがあるので、新潟大学でなければならぬ理由を明確にした方が良いと思う。

- ・クラウドでの管理ということは時代に合っているが、申請書の内容だけだと、これから構築するのか、既に構築されているのかが分かりづらいので、明確にした方が良いと思う。
- ・死因究明教育センターとして選ばれている中で、毒物については少し弱いですが、他大学と連携することで十分に機能していること、そういったデータ等をクラウドにより管理しており、薬物以外の部分では連携大学等とも連携が取れていること、それを今度は薬物に特化した仕組みとして構築し、その分野に弱い他大学等に広げる仕組みを作ることといったメッセージが出せると良いと思う。
- ・ポンチ絵の中でも、高度な分析機器を持っている機関と持っていない機関があり、個々の大学での仕組みではなく、各機関で連携して地域のネットワークを構築していくという目的を明記し、最後のところで、例えば、日本地図を右側の角に置いて、全国で連携できるような仕組みができていく可能性を見せたり、現状に即した地域連携型の薬物検査ネットワーク拠点モデルであるという形にできると良いと思う。
- ・新潟大学の強みを出していった方が、インパクトがあり、中身が締まって見えると思う。
- ・今のポンチ絵では次の段階が見えづらいので、横展開のイメージがつかめるような内容にできると良いと思う。
- ・事業費内訳について、主に技術または事務職員の人件費と検査試薬・消耗品しか計上していないが、この内容で問題ないのか伺いたい。
- ・上限が950万円程度となっているので、これ以上は計上できない。
- ・上限額はあると思うが、中身として、この計上されている内容で何が強化できるのかというところが分かりづらいので、例えば、通常の事務職員ではなく、ネットワーク連携のための専門職員といった記載にしても良いと思う。
- ・通信運搬費の経費内訳の内容が細かいので、もう少しまとめて計上しても良いと思う。また、今回の内容であれば、クラウドの部分について、別建てでも良いので、もう少し計上したほうが良いと思う。
- ・8ページ目の計画表について、検討は今後行うことになるとは思いますが、最終的には他大学との連携の検討を進めるというような内容を記載していても良いと思う。
- ・当初は、法人を設立するなども含めて計画を記載していたが、経費確保の観点や、一存で判断できない内容もあったため、事業期間中に検討予定という記載にしている。
- ・法人を設立することは、むしろ大事なポイントであり、本来は法人を設立することを考えるべきだと思う。経費の部分でも、クラウド運営費をしっかりと計上すべきであるし、そういった仕組みを構築するための新しい法人の設立に向けた経費も計上して良いと思う。
- ・法人設立となると新潟県などとの調整も必要になると思うが、まだ何も調整できていない状況である。
- ・年度計画に法人設立の検討予定といった記載としても良いと思う。

- ・新潟県の検案関係は、新潟大学を中心として、新潟県警察や海上保安庁などと連携をとってきていることも重要で、この連携を活かして、法人設立や他の新しい仕組みを提案できる可能性があるということを明確に記載すべきだと思う。

(2) 「令和5年度 総合的な診療能力を持つ医師養成の推進事業」への申請について

「令和5年度 総合的な診療能力を持つ医師養成の推進事業」への申請について、資料2に基づき審議が行われ、提出までに内容の修正等が必要となった場合は、学長に一任することとし、承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・昨年度の内容と大きく変わった点について伺いたい。
- ・講義も含めて、低学年時から総合診療学の重要な部分を伝えることができるようになったこともあり、学生教育の拡充といった点を取組内容として追記している。また、本学の医学部が全国トップクラスの定員数となることもあり、学生の教育においては、総合診療の教育が大事になってくるため、その点を加味した内容を追記している。

(3) 令和6年度施設整備費補助金要求事業について

令和6年度施設整備費補助金要求事業について、資料3に基づき審議が行われ、原案のとおり承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・ベンチャリングセンターを法学部に設置する理由も分かるが、もう少し中心部にあっても良いと思う。中心から離れた場所にベンチャリングセンターを設置してしまうと、ここで閉じてしまうのではないかという心配がある。
- ・現在、本学から経済産業省に申請している事業のヒアリングにおいても、あまり良くない印象を持っているように見えた。ただし、産学・地域連携スポットでもあるスタートアップ拠点を一番西側に設置していることもあり、ベンチャリングセンターを中心に持ってくると、ここが浮いてしまうように思う。また、正門から北門につながる道路の交通を改善できると良いが、もう少し考えていきたいと思う。